

令和4年度入学 総合型選抜

レクチャー①・レクチャーレポート・レクチャー②・ふりかえりレポート 講評

レクチャー①

【概要】

テーマ：訪れる者と迎える者の「想いのずれ」

交通手段の発達とグローバル化の進展によって異文化に育った人々との接触機会が日常化し、受け入れる側と訪れる側それぞれに相手方の「想い」を汲み取り、対応する力が求められている。このような現代社会を念頭に、自らの住む地域に対して自らが見いだす価値と他者が見いだす価値の相違（レクチャーでは「想いのずれ」と表現）について、海外からの観光客誘致を素材にしてレクチャーを行った。

まず、問題意識の背景を理解するため、戦後の国土開発やリゾート開発、およびそれに伴う訪日外国人旅行者の推移を説明した。その上で、実際の「想いのずれ」を、現代と近代の日本観光、二つの時代から確認した。前者では東京を事例に、都民と欧米訪日客・アジア訪日客との間にある関心の所在の相違を説明し、後者では大正時代にアメリカ人が編集した日本観光案内書と日本政府が発行した日本観光案内書を比較し、関心の所在の相違を説明した。最後に日光を事例に、外国人の評価で国内的評価が浮沈する事例を紹介し、外からの視線に対応する際のバランス感覚の必要性（柔軟性と過敏さ）を説明した。

レクチャーレポート

レクチャー①で使用した図表や説明を正しく理解できているかを問うとともに、レクチャーレポート問題冊子で新たに与えられた図表も踏まえながら、複数の図表を関連付けて理解する力と考察力、自らの主張に根拠を明示しつつ論理的に展開できる力をみることをねらった。

問1

【出題のねらい】

指定された図表から情報を的確に抽出・整理し、論理的に説明できる力をみることをねらった。日本・欧米豪・アジアの三つの地域の特徴的な要素を抽出し、(1)では日本人と外国人との間の相違として特に日本とアジアを比較し、(2)では同じ外国人間での相違として欧米豪とアジアを比較し、それぞれ問の「ずれ」について説明することを求めた。

【講評】

(1) 図表 5 から都民（横軸）とアジアに住む人（縦軸）との比較で、アジア側の順位の①高い項目と②低い項目を例示し、都民とアジアに住む人との間の③「ずれ」を総括的に説明する問題であった。項目の例示①については、概ね抽出できていたが、②に言及していない解答が多くみられた。また、③は抽出した項目から傾向を抽象化することが必要だが、項目の例示を以て説明を終え、③を説明するに至っていない解答が多かった。

(2) 図表 5 からアジアに住む人と欧米に住む人、すなわち縦軸同士を比較し、①両地域に特徴的な高順位項目を例示しながら、②傾向の相違を見だし、「ずれ」として総括的に説明する問題であった。①の高順位項目の例示については過不足なく見いだせていたが、③の総括的説明について言及するに至っていない解答が多いのは設問(1)と同様であった。

問 2

【出題のねらい】

指定された複数の図表から必要な情報と求められている値を理解し、分析（割合の計算）をする力、および導き出した分析結果（値）を別途与えられた世界情勢の時系列情報（年表）と関連付けて推論を立て、説明する力をみることをねらった。

【講評】

(1) 「減少率」を求める単純な問題であり、要求されている「減少率」がどのような計算式で求めるものであるかは、表 2 で確認することができる問題であったが、正答率は低かった。誤答の多くは「減少率」の計算式が導けなかった解答であった。

(2) 設問(1)で自ら求めた数値に基づいて二つの時期の変化の違いを見だし、その要因を与えられた文字情報（表 3）と関連付ける力が必要な問題であった。全体的として変化の違いは見いだせていたが、「多くなる」・「少なくなる」など記述が抽象的で、設問にある「数値に基づく」という条件を満たしていない解答が多かった。また、表 3 との関連付けについても表 3 の事項を引用していない記述が多くみられた。総じて、仮説を論じる上での数値的・文字的「根拠」の明示が不足している解答が多かった。

問 3

【出題のねらい】

レクチャー①の正確な理解度、および図表を適切に読み取った情報をベースに、自らの体験もおりまぜつつ、自ら思考し、その結果を論理的に説明する力をみることをねらった。(1)ではレクチャー①中の話題を指定して「迎える者」の理解度を測り、(2)では(1)の論述と実体験を踏まえた自らの思考の説明を求めた。

【講評】

(1) 図表 9 と図表 10 から、明治・昭和における日光に対する外国人の評価の変化を読み取り、説明する問題であった。設問中で日本人の評価に触れることも求めており、解答に必要な要素は①時期の明示、②外国人の具体的評価、③それぞれの評価に対する日本人側の反応となる。①および②の要素には概ね触れられていたが、③は、明治・大正の反応を概括してしまう解答、すなわち図表から日本人の反応を読み取っているわけではない解答が多くみられた。また日光を扱うよう指示していたが、日光に無関係な図表を基にした論述も散見された。また、根拠となる図表番号を明示するよう指示していたが、図表番号の明示が無い解答も散見されるなど、設問で指定した条件を満たさない解答が多かった。

(2) 設問(1)で解答した日光の事例、および自己の体験を基に、具体的な地域を指定しつつ、「迎える側」として必要と考える意識を、根拠、すなわち設問(1)での解答やどのような体験からそう考えるのかを明示し、述べる必要がある設問であった。根拠の明示がなく自分の意見を述べるだけの解答が多く、設問で指示している日光への言及、すなわち設問(1)での自らの解答にも触れていない解答が散見された。また、設問では解答者の立場（外国人観光客を増やす方策を考える立場）が設定されており、その立場上、“どのような場（地域）で方策を考えているのか”という場の設定をされていることが望まれるが、具体的な場の設定に至っていない解答も多くみられた。

レクチャー②

【概要】

テーマ：受け入れる側と移住する側の「想いのずれ」

国内の移住に焦点をあて、まず、移住を推進する背景として人口減少あるいは人口の偏在による問題があること、さらに地方への人の流れを作る様々な取り組みがあることについてレクチャーを行った。そして、地域住民と移住した人との間にある感じ方のギャップや移住者が移住前後で感じたギャップ、移住する側と受け入れる側の想いにずれがあることを紹介した。

移住する側と受け入れる側の双方の立場に立ち、それぞれの考え、感じ方の違いがあることを前提として、その上で、多様な価値観を持つ人々とどのように折り合いをつけて定住を促進していけるか考えていくことが必要であることを説明した。

ふりかえりレポート

レクチャー②の内容を正しく理解し、複数の資料を活用して課題を明確にし、自らの主張を組み立てることができるかを問うとともに、グループワークでの他者の意見を参考に自らの考えを深め、自らの主張を客観的に評価できる力をみることをねらった。

問 1

【出題のねらい】

レクチャー②の内容を正しく理解し、複数の資料を活用して課題を明確にし、自らの主張を組み立てる力をみることをねらった。

【講評】

(1) 仮想移住者の情報と人口減少による多様な問題の解決の可能性を問う問題であった。与えられた情報から飛躍した推論がみられたり、自らの意見の裏付けを表現したりすることが不十分な解答が半数程度みられた。

(2) 居住地域に感じる魅力を示したグラフの解釈は概ねできていた。I/J ターン者と U ターン者それぞれの特徴は記述できているが、どのような違いがあるのかまでを明確に記述できていない解答もあった。

(3) 複数の統計情報から仮想都市のおかれている状況を推測し、課題を見いだしてもらう問いであった。資料から人口減少と高齢化の進行は推測できているものの、そこからどのような課題が生じうるか複数の資料を活用して論述できていない解答が多かった。

問 2

【出題のねらい】

グループワークでの他者の意見を参考に自らの考えを深め、自らの主張を根拠に基づいて論じるとともに、客観的に評価できる力をみることをねらった。

【講評】

(1) 移住者側と受け入れる側との間に生じうる想いのずれに関しては、良好な解答状況であった。しかし、グループワークでの議論の内容が自らの意見にどう影響したのか、どのように関連するのかまで、記述できている解答は少なく、単にグループワークの経過を記述しているものが散見された。

(2) プロジェクトの抱える問題については良好な解答状況であり、その解決のために自治体がとるべき方策も記述されていた。しかし、その具体性が不十分である解答も半数程度みられた。また、自己の主張における具体的な根拠を記述することを求めたが、一部、根拠があいまいな解答もあった。

問 3

【出題のねらい】

レクチャー①、レクチャー②、およびグループワークにおける他者の意見をふまえて自らの思考の経過を整理し、論理的に説明できる力をみることをねらった。

【講評】

レクチャー①，レクチャー②，およびグループワークを通じて，自身の思考が変化していく経過については，概ね記述できていたが，印象に残ったレクチャーの内容・グループワーク場面の感想を時系列に並べただけの解答も少なからずあった。また，レクチャーやグループワークの前における自身の考え方が示されておらず，思考が変化していく経過を読み取ることができない解答や，その変化が具体的に何によってもたらされたのかまで示されておらず，説明の論理性が弱い解答も多かった。